

## 原 著

## 介護老人保健施設に勤務する高年齢介護助手の業務内容と 就労によって感じるメリットとの関連

スギウラ ケイコ<sup>\*,2\*</sup> サガラ トモヤ タカセ マイ ナカモト イスズ<sup>\*,3\*</sup>  
 杉浦 圭子<sup>\*,2\*</sup> 相良 友哉<sup>\*</sup> 高瀬 麻以<sup>\*</sup> 中本 五鈴<sup>\*,3\*</sup>  
 マ バンバン<sup>\*,4\*</sup> ムトウ ヨウコ<sup>\*,5\*</sup> ヒガシ ケンタロウ<sup>6\*</sup> フジワラ ヨシノリ<sup>7\*</sup>  
 ムラヤマ ヒロシ  
 村山 洋史<sup>\*</sup>

**目的** 本研究は、介護老人保健施設で働く高年齢介護助手の個人特性や就労状況別の業務内容の特徴の明確化と業務内容と介護助手に就労することによって感じるメリットとの関連性の検討を目的とした。

**方法** 2020年11月に全国老人保健施設協会に所属の2,571施設に郵送調査を行った。高年齢介護助手の定義は60歳以上等で、施設ごとに回答者は最大5人とし、599施設、1,606人から回答を得た。調査項目は、個人特性や就労状況の他、業務内容として13項目を設定し、「利用者の送迎・送迎補助」等の2項目を『利用者の移動補助』、「清掃・備品管理」等の5項目を『環境整備』、「食事の配膳・下膳」等の3項目を『食事関連補助』、「利用者の見守り・傾聴」等の3項目を『利用者の見守り・声かけ』と4つに分類した。介護助手の就労によって感じるメリットは、「社会貢献」「社会とのつながり」「生きがい」「収入」「介護からの学び」「健康維持・増進」「時間活用」の7つを設定し、2件法で回答を得た。

**結果** 対象は女性が66.7%、平均年齢は68.4歳であった。利用者の移動補助の業務は男性や前期高齢者、週5日以上勤務者の割合が高かった。利用者の見守り・声かけの業務は性別や年齢、勤務日数と関連はなく、流動的な勤務パターンの方の方が従事割合が高かった。就労により感じるメリットでは、利用者の移動補助に従事している者は社会とのつながり、介護からの学びのメリットと関連があった。環境整備への従事は、収入、健康維持・増進、時間の有効活用と、食事関連補助への従事は、介護からの学びとの関連し、利用者の見守り・声かけへの従事は、社会貢献、社会とのつながり、生きがい、介護からの学びのメリットと関連した。介護助手継続年数別にみると継続年数が短い者ではなく長い者で、先述と同じ傾向が多くみられたが、食事関連補助、利用者の見守り・声かけへの従事では継続年数が短い者で収入のメリットと負の関連がみられた。

**結論** 高年齢介護助手は個人特性や就労状況により、従事する業務内容に特徴がみられた。就労により感じるメリットは、利用者との接触が多い業務は社会貢献やつながり、生きがいや介護からの学びというメリットと関連し、接触の少ない業務内容は収入や時間の有効活用と関連があり、介護助手の継続年数による違いもみられることが明らかとなった。

**Key words** : 高年齢介護助手, 介護老人保健施設, 業務内容, 就労メリット

日本公衆衛生雑誌 2024; 71(7): 337-348. doi:10.11236/jph.23-080

\* 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム

<sup>2\*</sup> 九州大学大学院医学研究院保健学部門

<sup>3\*</sup> 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻

<sup>4\*</sup> 国際医療福祉大学看護学部国際看護学科

<sup>5\*</sup> 国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター

<sup>6\*</sup> 公益社団法人全国老人保健施設協会

<sup>7\*</sup> 東京都健康長寿医療センター研究所

責任著者連絡先: 〒173-0015 板橋区栄町35-2

東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム 村山洋史

## I 緒 言

本邦は、超高齢社会となつて久しい。現状、生産年齢人口減少による労働力不足が懸念される中、高齢者の労働市場への参画が期待されている。高齢者においては、就労中の60歳以上の者の約4割が「働けるうちはいつまでも」働きたいと回答し、働くのは70歳位まで、もしくはそれ以上という回答を合計すると8割を占め、高い就業意欲を持っていることが報告されている<sup>1)</sup>。高齢者が就労という役割を持ちつつ社会参加することは、社会的自立や生きがいを促す<sup>2)</sup>ことからサクセスフルエイジングの条件として挙げられるプロダクティビティを高めることに貢献できる可能性が高い。

高齢化率が上がり続けることで、要介護者数が増加することは容易に想像でき、一方施設介護の現場では、介護職員の離職率は27.7%と高く<sup>3)</sup>、慢性的な人手不足の状況が続いている。介護の担い手不足に対応すべく、介護職員の人員確保や労働環境の整備は重要であると考えられる<sup>4)</sup>。介護職の業務内容をみると、必ずしも専門職性が高いものばかりではない。たとえば、介護施設内の清掃や整備、利用者の見守り等がそれに相当する。それらを「介護助手」という形態で雇用し、非専門的な業務に従事してもらい取り組みもなされている。また、介護補助としての就労意向を持つ高齢者も少なからず存在することが報告されている<sup>5)</sup>。この介護助手の仕事は、心身の健康状態の良い高齢者にも適用し、厚生労働省の介護現場革新会議の基本方針の一つとして定められた<sup>6)</sup>。これは、高齢者の就労での「社会参加の促進」と介護職の「業務負担の軽減」という二つの事象の相乗効果も期待できる。

2020年時点で60歳以上の高年齢介護助手を導入している介護老人保健施設は38.1%と報告されている<sup>7)</sup>。しかし、高年齢介護助手に関連する先行研究は少ない。相良ら<sup>8)</sup>は施設における高年齢介護助手の雇用実態について報告し、介護助手は大規模施設で雇用人数が多く、小・中規模施設では体系的な研修システムが整っていないことを明らかにした。加えて、介護助手を対象とした研究では、馬ら<sup>9)</sup>や中本ら<sup>10)</sup>が高年齢介護助手の情緒的消耗感に着目し、関連要因を述べている。一つは、仕事の質的・量的負担や職場の一体感、周囲からのサポートは情緒的消耗感の高低と関連することが報告された<sup>9)</sup>。二つ目には中本ら<sup>10)</sup>が、介護助手として就労することで健康維持・増進等、多様なメリットを得ることは介護助手の情緒的消耗感の低さと関連があることを明らかにした。以上のような知見は得られているが、

いまだ明らかとなっていない側面もある。1点目に介護老人保健施設で雇用されている高年齢介護助手がどのような人材で構成されているのかという人的背景や、具体的にどのような業務に従事しているのか明らかでないという点である。2点目に高年齢介護助手がメリットを得ることは、精神面によい結果をもたらすことが示唆されたが、高年齢介護助手がいかにしてメリットを得ているかを明らかにした研究は存在しないことである。介護助手は非専門的に従事しているが、業務内容は難易度や多様性が広いことが特徴である<sup>11)</sup>。業務の中には、入所者と関わりを持つ対人的業務もあれば、周辺業務と呼ばれる非対人的業務も含まれる。そのため、従事する業務内容によって、得られるメリットにバリエーションが生じている可能性がある。

以上から、本研究は高年齢介護助手の従事している業務内容に着目し、以下の2点を目的とした。1点目は、高年齢介護助手の個人特性や就労状況別に従事している業務内容の特徴を明らかにすること、2点目は、どのような業務に従事することがメリットの享受に関連するか否かを明らかにすることである。これらにより、現在明らかになっている知見に加え、高年齢介護助手の特徴に応じた業務配置等、就労環境に対するより実践的な示唆が得られると考える。

## II 研究方法

### 1. 調査対象および方法

本研究は、2020年度老人保健健康推進事業として、全国老人保健施設協会（以下、全老健と略す）が行った「介護老人保健施設等における業務改善に関する調査研究事業」の介護助手調査のデータを用いた。この調査では、全老健の会員施設全3,591施設（2020年9月24日時点）のうち、事前FAX調査で、介護助手を雇用していないと確実に回答した1,020施設を除き、高年齢介護助手雇用不明も含めた残りの2,571施設に、2020年11～12月に郵送にて自記式質問紙票を配布した。該当施設ごとに高年齢介護助手5人を最大回答者数として依頼した。高年齢介護助手の定義は、年齢60歳以上、施設と直接の雇用関係にある者（有償ボランティア等を除く）で、介護職員との役割分担により、利用者の身体に接触しない周辺業務のみを担っている者とした。回収は郵送にて行い、599施設、1,606人の高年齢介護助手から回答が得られた。なお、対象年齢を60歳以上としたことには、2020年度における一般的な企業等の定年年齢を考慮し、定義づけを行った。

本研究は、東京都健康長寿医療センター研究部門

倫理委員会の承認を得た（承認日2021年1月22日；承認番号2健イ事2941号）。調査対象者には、調査の趣旨や調査協力が任意であること、および個人情報の保護に関する説明を調査票に同封した文書上でを行い、調査への回答をもって同意を得たものとした。なお、本研究は高齢者就労支援研究プロジェクト「高齢者就労支援プロジェクト ESSENCE（Employment Support System for Enhancing Community Engagement）研究<sup>12)</sup>」の一環として実施した。ESSENCE研究の具体的な内容はホームページの他、相良ら、馬ら、中本らによる先行研究<sup>8,9)</sup>に示すとおりである。

## 2. 調査項目

### 1) 個人特性

年齢、性別、最終学歴（中学校、高等学校、専門学校・短期大学、大学・大学院の4カテゴリー）、介護・医療・福祉関連資格の保有の有無（以下、資格の有無と略す）、介護助手を始めたきっかけ（情報源）、主観的健康感（「あなたは普段ご自分で健康だと思えますか」の質問に「健康である」と回答した者を4点とし、「健康でない」との回答を1点として換算する4件法）を尋ねた。

### 2) 就労状況、介護助手を始めた理由

通勤手段、通勤時間、介護助手としての継続年数、1週間あたりの勤務日数、1日あたりの勤務時間、勤務パターンを尋ねた。勤務パターンは、「勤務する曜日や時間帯は、だいたい固定的である」に回答した者を「固定的」、「勤務する曜日や時間帯は、流動的で日によって変わることが多い」に回答した者を「流動的」とした。勤務時間は、勤務日数と時間をかけ合わせ、週あたりの勤務時間を算出し、分析に使用した。継続年数は年数と月数の回答を得たため、求めた合計月数を12で除算したものを分析に使用した。さらに、介護助手を始めた理由（就労働機）として、「社会に貢献するため」「社会とのつながりを得るため」「ある程度の収入が欲しいため」「生きがいを得るため」「介護について学びたいため」「健康の維持・増進のため」「時間に余裕があるため」の7項目を「はい」「いいえ」の2件法で回答を得た。

### 3) 業務内容

介護助手として従事している業務内容を13項目設定し、項目ごとに「従事している」「従事していない」の2件法で回答を得た。

業務内容については、13項目の業務の特性を勘案し、大きく4つの業務内容に分類した。分類の妥当性については、研究者間で検討を行い、さらに現職の介護職2人に分類の妥当性を確認してもらった。

分類内容は、「利用者の送迎・送迎補助」と「利用者の移動補助（車イス含む）」の2項目を『利用者の移動補助』、「清掃・備品管理」、「（テーブルや手すり等の）消毒などの感染症対策」「ベッドメイキング」、「洗濯・洗濯物の回収や配布等」、「浴室清掃・湯はり」の5項目を『環境整備』、「調理補助・とろみ付け」、「食事の配膳・下膳」、「記録補助（食事摂取量等）」の3項目を『食事関連補助』、「利用者の見守り・傾聴（話し相手）」、「起床・就寝時の声かけや見守り」、「イベントやアクティビティ補助」の3項目を『利用者の見守り・声かけ』とした。各分類に含まれる業務のいずれかに従事している場合を1点、いずれにも従事していない場合を0点として分析に使用した。

### 4) 介護助手の就労によって感じるメリット

就労によって感じるメリットは7項目で尋ねた。メリットの項目は、これまでの高齢者の雇用に関する調査<sup>13,14)</sup>で就労働機として用いられた項目を参考に選定された。内容としては、「介護助手の仕事が始めることで、以下のことができるようになりましたか」と設問を設定した。それに対し「社会貢献することができている（社会貢献）」「社会とのつながりを得られている（社会とのつながり）」「生きがいを得られている（生きがい）」「期待していた収入を得られている（収入）」「介護について学ぶことができている（介護からの学び）」「自分の健康の維持・増進に繋がっている（健康維持・増進）」「時間を有効に使うことができている（時間の有効活用）」に「はい」「いいえ」の2件法で回答を得た。

## 3. 解析方法

分析対象者の個人特性や就労状況についての傾向を記述統計で把握し、 $\chi^2$ 検定およびMann-Whitney検定、 $t$ 検定にて性差による違いを確認した。また、 $\chi^2$ 検定を行い、個人特性により従事する業務内容に違いがあるかどうか検討した。

次に、業務内容と介護助手の就労によって感じるメリットとの関連を明らかにするため、メリット7項目をそれぞれ従属変数とし、二項ロジスティック回帰分析を行った。業務内容については、上述の分類を用い、業務内容間の相関係数が高いため、回帰式ごとに分類した1種類ずつを投入した。最初に、年齢、性別、資格の有無、主観的健康感、就労働機、週あたりの勤務時間、介護助手としての継続年数を調整変数として強制投入し、分析を行った。介護助手業務は継続年数を経て経験値が高まり、それによって得られるメリットが変遷する可能性が高いと考え、継続年数の中央値を閾値とし、短い勤務年数「3.4年未満」と、長い継続年数を「3.4年以上」

で層別に分析を行った。ロジスティック回帰分析では、分析結果はオッズ比 (odds ratio : OR) と95%信頼区間 (confidence interval : CI) を算出した。統計には IBM SPSS 26を使用し、有意水準は5% (両側) とした。

### Ⅲ 研究結果

有効回答1,606票のうち、すべての項目が無回答だった5票を除外した1,601票を本研究の分析に用いた。対象者の個人特性を表1に示した。対象者の平均年齢は、 $68.4 \pm 4.6$ 歳 (範囲: 60-85歳) であった。性別は、女性が66.7%を占めていた。最終学歴は、高等学校がもっとも多く59.9%だった。資格の保有に関しては、70.1%の者が「あり」と回答していた。主観的健康感は、94.3%が「健康である」または「まあ健康である」と回答していた。

介護助手を始めたきっかけとしては、家族や知り合いからの口コミがもっとも多く35.7%であり、次いでハローワークが26.4%であった。通勤手段は自家用車がもっとも多く、片道の通勤時間は平均 $16.9 \pm 11.4$ 分であった。介護助手としての継続年数は平均 $5.4 \pm 5.8$ 年であった。週あたりの勤務日数は平均 $4.2 \pm 1.0$ 日であり、1日の勤務時間は平均 $5.1 \pm 1.9$ 時間であった。勤務パターンは、88.6%が「固定的」と回答していた。

業務内容や介護助手の就労によって感じるメリットについて表2に示した。業務内容については、全体では「清掃・備品管理」の業務がもっとも多く(67.5%)、次いで多かったのは「利用者の見守り・傾聴」で47.3%が実施していた。介護助手の就労によって感じるメリットについては、いずれのメリットも7割以上の者が得られたと回答していた。とくに、時間の有効活用、健康維持・増進は、9割以上の者が就労するメリットとして挙げていた。

個人特性や就労状況を男女で比較した結果では、男性は65歳以上70歳未満の者が43.5%と最も多かった (表1)。介護を始めたきっかけとしては「ハローワーク」と回答した者は男性の方の割合が高く、「介護施設からの情報」と回答した者は女性の方の割合が有意に高かった。通勤手段では、自家用車の使用割合が男性で高く、バス・電車および徒歩のみで通勤、通勤時間の短い割合は女性が高かった。

分類した業務内容と個人特性、就労状況との関連について表3と表4に示した。性差では、利用者の移動補助は男性の方が従事している割合が高かったが、環境整備と食事関連補助は女性の方が従事している割合が高かった。年齢については、利用者の移動補助に関して、若い年代の方の従事割合が高かつ

た。資格の有無で比較すると、利用者の移動補助では差はみられなかったが、他の項目について資格ありの方の従事している割合が高かった。就労状況について、勤務時間が長いほうが4つの業務内容すべての従事割合が高かった。勤務日数では、利用者の移動補助は5日以上の方の従事割合が高く、環境整備や食事関連補助の業務は5日未満の方の方が従事割合が高かった。勤務パターンでは、利用者の見守り・声かけの業務で「流動的」なパターンで従事している者が多かった。

就労によって感じるメリット7項目を従属変数とし、分類した業務内容との関連を二項ロジスティック回帰分析でみた結果を表5に示す。全体でみると、利用者の移動補助への従事は、社会とのつながり、介護からの学びというメリットと正の関連があった。環境整備への従事は、収入、健康維持・増進のメリットと正の関連があった。食事関連補助への従事は、介護からの学びと正の関連があった。利用者の見守り・声かけへの従事は、社会貢献、社会とのつながり、生きがい、介護からの学びと正の関連がみられた。介護助手としての継続年数別にみると利用者の移動補助や利用者の見守り・声かけへの従事は社会貢献、社会とのつながりというメリットについて、環境整備と利用者の見守り・声かけへの従事は生きがいというメリットにも継続年数が3年以上と長い者との間に正の関連がみられた。環境整備の業務と健康維持・増進、時間の有効活用のメリットも継続年数が長い方で正の関連がみられた。しかし、収入というメリットに関しては、食事関連補助、利用者の見守り・声かけの内容との間に負の関連がみられた。

### Ⅳ 考 察

本研究は、高齢介護助手の個人特性や就労状況別に行っている業務内容の特徴を明らかにし、加えて業務内容と介護助手に就労することによって感じるメリットとの関連性を検討することを目的とした。本研究と同様のデータを用いた先行研究のひとつでは、高齢介護助手として就労することによるメリットが精神的健康と関連すると報告している<sup>10)</sup>。しかし、そのメリットがどのような業務内容に従事することで感じるができるかは明らかにできていない。本研究は、高齢介護助手の従事する業務内容とメリットとの関連を明らかにし、実際にどのような業務に従事することでどのようなメリットを感じるかを明らかにした点に独自性がある。たとえば、介護助手として就労することでどんなメリットを得ることを期待しているか (すなわ

表1 対象者の個人特性と就労状況および性差の状況

|                         | 全体<br>( <i>n</i> = 1,601) |            | 男性<br>( <i>n</i> = 532) |          | 女性<br>( <i>n</i> = 1,067) |          | <i>P</i> 値 |
|-------------------------|---------------------------|------------|-------------------------|----------|---------------------------|----------|------------|
|                         | <i>N</i>                  | %          | <i>N</i>                | %        | <i>N</i>                  | %        |            |
| 年齢                      | 68.4 ± 4.6(60-85)         |            | 68.4 ± 4.4              |          | 68.4 ± 4.8                |          | .904       |
|                         | 65歳未満                     | 350 22.2   | 101 19.1                | 249 23.9 | 249 23.9                  | 364 34.9 | <.001      |
|                         | 70歳未満                     | 594 37.7   | 230 43.5                | 364 34.9 | 364 34.9                  | 364 34.9 |            |
|                         | 75歳未満                     | 469 29.8   | 152 28.7                | 316 30.3 | 316 30.3                  | 316 30.3 |            |
|                         | 75歳以上                     | 161 10.2   | 46 8.7                  | 115 11.0 | 115 11.0                  | 115 11.0 |            |
| 最終学歴                    | 中学校                       | 239 15.8   | 73 14.7                 | 166 16.4 | 166 16.4                  | 166 16.4 | .410       |
|                         | 高等学校                      | 907 59.9   | 291 58.4                | 615 60.7 | 615 60.7                  | 615 60.7 | .434       |
|                         | 専門学校・短期大学                 | 243 16.1   | 38 7.7                  | 204 20.1 | 204 20.1                  | 204 20.1 | <.001      |
|                         | 大学・大学院                    | 125 8.3    | 96 19.3                 | 29 2.9   | 29 2.9                    | 29 2.9   | <.001      |
| 資格保有の有無                 | あり                        | 1,102 70.1 | 436 82.6                | 665 63.8 | 665 63.8                  | 665 63.8 | <.001      |
|                         | なし                        | 471 29.9   | 92 17.4                 | 378 36.2 | 378 36.2                  | 378 36.2 |            |
| 主観的健康感                  | 3.3 ± 0.6(1-4)            |            | 3.2 ± 0.6               |          | 3.3 ± 0.6                 |          | .373       |
|                         | 健康である (=4点)               | 512 33.1   |                         |          |                           |          |            |
|                         | まあ健康である (=3点)             | 945 61.2   |                         |          |                           |          |            |
|                         | あまり健康ではない (=2点)           | 84 5.4     |                         |          |                           |          |            |
|                         | 健康でない (=1点)               | 4 0.3      |                         |          |                           |          |            |
| 介護助手を始めたきっかけ (複数回答)     | 3.3 ± 0.6(1-4)            |            | 3.2 ± 0.6               |          | 3.3 ± 0.6                 |          | .373       |
|                         | 家族や知り合いからの口コミ             | 571 35.7   | 172 32.3                | 398 37.3 | 398 37.3                  | 398 37.3 | .053       |
|                         | ハローワーク                    | 423 26.4   | 188 35.3                | 234 21.9 | 234 21.9                  | 234 21.9 | <.001      |
|                         | 介護施設からの情報                 | 253 15.8   | 66 12.4                 | 187 17.5 | 187 17.5                  | 187 17.5 | <.001      |
|                         | メディアの情報 (TV, 新聞, 雑誌, Web) | 147 9.2    | 41 7.7                  | 106 9.9  | 106 9.9                   | 106 9.9  | .168       |
|                         | 自治体からの情報 (広報誌など)          | 87 5.4     | 21 3.9                  | 66 6.2   | 66 6.2                    | 66 6.2   | .058       |
|                         | シルバー人材センター                | 55 3.4     | 25 4.7                  | 30 2.8   | 30 2.8                    | 30 2.8   | .058       |
|                         | 都道府県の老健協会等による求人活動         | 40 2.5     | 9 1.7                   | 31 2.9   | 31 2.9                    | 31 2.9   | .172       |
|                         | 都道府県福祉人材センター              | 18 1.1     | 4 0.8                   | 14 1.3   | 14 1.3                    | 14 1.3   | .452       |
|                         | その他                       | 127 7.9    | 29 5.5                  | 98 9.2   | 98 9.2                    | 98 9.2   | .010       |
| 介護助手を始めた理由 (就労動機: 複数回答) | 3.3 ± 0.6(1-4)            |            | 3.2 ± 0.6               |          | 3.3 ± 0.6                 |          | .373       |
|                         | ある程度の収入が欲しかったため           | 853 63.9   | 259 48.7                | 592 55.5 | 592 55.5                  | 592 55.5 | .010       |
|                         | 健康の維持・増進のため               | 642 48.1   | 182 34.2                | 459 43.0 | 459 43.0                  | 459 43.0 | .001       |
|                         | 時間に余裕があるため                | 544 40.8   | 172 32.3                | 371 34.8 | 371 34.8                  | 371 34.8 | .332       |
|                         | 社会とのつながりを得るため             | 542 40.6   | 152 28.6                | 389 36.5 | 389 36.5                  | 389 36.5 | .002       |
|                         | 生きがいを得るため                 | 402 30.1   | 94 17.7                 | 307 28.8 | 307 28.8                  | 307 28.8 | <.001      |
|                         | 社会に貢献するため                 | 344 25.8   | 132 24.8                | 212 19.9 | 212 19.9                  | 212 19.9 | .023       |
|                         | 介護について学びたいため              | 249 18.7   | 48 9.0                  | 201 18.8 | 201 18.8                  | 201 18.8 | <.001      |
| 通勤手段 (複数回答)             | 自家用車                      | 1,109 69.3 | 437 82.1                | 670 62.8 | 670 62.8                  | 670 62.8 | <.001      |
|                         | 自転車・バイク                   | 267 16.7   | 70 13.2                 | 197 18.5 | 197 18.5                  | 197 18.5 | <.001      |
|                         | バス・電車                     | 172 11.1   | 32 6.0                  | 140 13.1 | 140 13.1                  | 140 13.1 | <.001      |
|                         | 徒歩のみ                      | 139 8.7    | 16 3.0                  | 123 11.5 | 123 11.5                  | 123 11.5 | <.001      |
| 通勤時間 (片道: 分)            | 16.9 ± 11.4(0.5-80)       |            | 18.2 ± 12.5             |          | 16.3 ± 10.7               |          | <.001      |
| 介護助手としての継続年数            | 5.4 ± 5.8(0.1-40, 3.4)    |            | 4.7 ± 4.3               |          | 5.8 ± 6.3                 |          | <.001      |
|                         | 3.4年未満                    | 748 49.8   |                         |          |                           |          |            |
|                         | 3.4年以上                    | 755 47.2   |                         |          |                           |          |            |
| 勤務日数 (週あたり: 日)          | 4.2 ± 1.0(1-7)            |            | 4.7 ± 0.9               |          | 4.1 ± 1.0                 |          | <.001      |
|                         | 5日未満                      | 790 50.5   |                         |          |                           |          |            |
|                         | 5日以上                      | 774 49.5   |                         |          |                           |          |            |
| 勤務時間 (1日あたり: 時間)        | 5.1 ± 1.9(0.3-9.0)        |            | 5.5 ± 2.0               |          | 4.8 ± 1.8                 |          | <.001      |
| 勤務パターン                  | 固定的                       | 1,383 88.6 | 459 88.4                | 923 88.8 | 923 88.8                  | 923 88.8 | .866       |
|                         | 流動的                       | 178 11.4   | 60 11.6                 | 117 11.3 | 117 11.3                  | 117 11.3 |            |

「全体」については、回答件数とパーセンテージを回答したものに対する割合として示し、欠損値は除外して算出した。個人特性と就労状況について性差を検討するため各々の項目について、 $\chi^2$  検定、*t* 検定、Mann-Whitney *U* 検定を行った。*P* 値はそれぞれの検定結果。パーセンテージは回答したものに対する割合を示し、欠損値は除外して算出した。

表2 対象者の業務内容と介護助手の就労によって感じるメリットおよび性差の状況

| 業務内容                        | 全体<br>(n=1,601) |      | 男性<br>(n=532) |      | 女性<br>(n=1,067) |      | P値    |
|-----------------------------|-----------------|------|---------------|------|-----------------|------|-------|
|                             | N               | %    | N             | %    | N               | %    |       |
| <b>【利用者の移動補助】</b>           |                 |      |               |      |                 |      |       |
| 利用者の移動補助（車イス含む）             | 513             | 34.5 | 245           | 54.1 | 268             | 29.0 | <.001 |
| 利用者の送迎・送迎補助                 | 409             | 27.5 | 371           | 77.3 | 38              | 4.1  | <.001 |
| <b>【環境整備】</b>               |                 |      |               |      |                 |      |       |
| 清掃・備品管理                     | 1,005           | 67.5 | 255           | 55.6 | 748             | 78.8 | <.001 |
| 消毒などの感染症対策                  | 919             | 61.8 | 292           | 63.8 | 626             | 66.1 | .386  |
| ベッドメイキング                    | 563             | 37.8 | 72            | 16.3 | 485             | 51.3 | <.001 |
| 洗濯・洗濯物の回収や配布等               | 558             | 37.5 | 76            | 17.1 | 486             | 50.8 | <.001 |
| 浴室清掃・湯はり                    | 188             | 12.6 | 52            | 11.8 | 136             | 14.8 | .133  |
| <b>【食事関連補助】</b>             |                 |      |               |      |                 |      |       |
| 食事の配膳・下膳                    | 659             | 44.3 | 103           | 22.8 | 555             | 59.0 | <.001 |
| 調理補助・とろみ付け                  | 353             | 23.7 | 36            | 8.1  | 316             | 34.3 | <.001 |
| 記録補助（食事摂取等）                 | 233             | 15.7 | 53            | 12.0 | 180             | 19.3 | <.001 |
| <b>【利用者の見守り・声かけ】</b>        |                 |      |               |      |                 |      |       |
| 利用者の見守り・傾聴                  | 704             | 47.3 | 191           | 42.4 | 513             | 55.2 | <.001 |
| イベントやアクティビティ補助              | 247             | 16.6 | 104           | 23.2 | 143             | 15.7 | <.001 |
| 起床・就寝時の声かけや見守り              | 145             | 9.7  | 33            | 7.5  | 112             | 12.2 | <.001 |
| 介護助手の就労によって感じるメリット（複数回答）    |                 |      |               |      |                 |      |       |
| 時間を有効に使うことができている（時間の有効活用）   | 1,249           | 90.8 | 395           | 86.8 | 852             | 92.7 | <.001 |
| 自分の健康の維持・増進に繋がっている（健康維持・増進） | 1,254           | 90.2 | 405           | 88.0 | 847             | 91.2 | .066  |
| 社会とのつながりを得られている（社会とのつながり）   | 1,149           | 85.9 | 386           | 85.8 | 761             | 85.9 | .955  |
| 介護について学ぶことができている（介護の学び）     | 1,110           | 83.3 | 365           | 81.7 | 744             | 84.1 | .265  |
| 社会貢献することができている（社会貢献）        | 1,021           | 79.1 | 372           | 82.1 | 647             | 77.4 | .046  |
| 生きがいを得られている（生きがい）           | 1,029           | 78.0 | 308           | 69.8 | 720             | 82.1 | <.001 |
| 期待していた収入を得られている（収入）         | 933             | 72.0 | 275           | 64.0 | 657             | 76.0 | <.001 |

「全体」については、回答件数とパーセンテージを回答したものに対する割合として示し、欠損値は除外して算出した。業務内容と就労によって感じるメリットについて性差を検討するため各々の項目について、 $\chi^2$  検定を行った。P値はそれぞれの検定結果。パーセンテージは回答したものに対する割合を示し、欠損値は除外して算出した。

表3 業務内容と性別、年齢カテゴリ、資格保有の有無との関連

| 業務内容        | 性別            |      | 年齢カテゴリ          |      |                           |     |                           |     |                           |     |                  |     |                 |      | 資格保有の有無       |      |     |      |       |
|-------------|---------------|------|-----------------|------|---------------------------|-----|---------------------------|-----|---------------------------|-----|------------------|-----|-----------------|------|---------------|------|-----|------|-------|
|             | 男性<br>(n=532) |      | 女性<br>(n=1,067) |      | 60歳以上<br>65歳未満<br>(n=350) |     | 65歳以上<br>70歳未満<br>(n=594) |     | 70歳以上<br>75歳未満<br>(n=469) |     | 75歳以上<br>(n=161) |     | あり<br>(n=1,015) |      | なし<br>(n=453) |      | P値  |      |       |
|             | N             | %    | N               | %    | N                         | %   | N                         | %   | N                         | %   | N                | %   | N               | %    | N             | %    |     |      |       |
| 利用者の移動補助    | 365           | 81.1 | 261             | 28.8 | <.001                     | 155 | 49.5                      | 259 | 50.3                      | 168 | 43.5             | 38  | 30.9            | .001 | 178           | 44.2 | 439 | 46.9 | .366  |
| 環境整備        | 344           | 81.1 | 821             | 94.7 | <.001                     | 285 | 93.8                      | 436 | 89.7                      | 330 | 89.7             | 103 | 87.3            | .124 | 374           | 94.9 | 784 | 88.4 | <.001 |
| 食事関連補助      | 119           | 27.7 | 556             | 61.8 | <.001                     | 168 | 54.7                      | 232 | 46.1                      | 205 | 54.7             | 63  | 50.4            | .063 | 262           | 64.5 | 401 | 44.2 | <.001 |
| 利用者の見守り・声かけ | 219           | 50.1 | 487             | 55.3 | .078                      | 169 | 55.4                      | 270 | 54.3                      | 193 | 51.5             | 68  | 55.3            | .728 | 256           | 64.5 | 441 | 48.7 | <.001 |

数値は「業務に従事している」と回答した者のうち、性別、年齢カテゴリ、資格の有無別に $\chi^2$ 検定を行い、P値はそれぞれの検定結果の値を示すパーセンテージは回答したのものに対する割合を欠損値は除いて算出した。

表4 業務内容と就労状況との関連

| 業務内容        | 通勤時間             |      |                  |      | 勤務時間(1日あたり)      |     |                           |     | 勤務日数(週あたり：日)     |     |                 |       | 勤務パターン          |      |                  |      |                |       |      |     |      |      |
|-------------|------------------|------|------------------|------|------------------|-----|---------------------------|-----|------------------|-----|-----------------|-------|-----------------|------|------------------|------|----------------|-------|------|-----|------|------|
|             | 15分未満<br>(n=575) |      | 15分以上<br>(n=746) |      | 4時間未満<br>(n=291) |     | 4時間以上<br>6時間未満<br>(n=521) |     | 6時間以上<br>(n=481) |     | 5日未満<br>(n=641) |       | 5日以上<br>(n=627) |      | 固定的<br>(n=1,185) |      | 流動的<br>(n=146) |       | P値   |     |      |      |
|             | N                | %    | N                | %    | N                | %   | N                         | %   | N                | %   | N               | %     | N               | %    | N                | %    | N              | %     |      |     |      |      |
| 利用者の移動補助    | 271              | 47.1 | 340              | 45.6 | .574             | 95  | 32.6                      | 232 | 42.6             | 291 | 58.0            | <.001 | 222             | 33.2 | 391              | 59.2 | <.001          | 537   | 45.3 | 77  | 52.7 | .090 |
| 環境整備        | 494              | 89.5 | 645              | 90.8 | .422             | 232 | 84.7                      | 461 | 88.5             | 458 | 95.2            | <.001 | 593             | 92.5 | 552              | 88.0 | .007           | 1,013 | 89.8 | 134 | 93.7 | .139 |
| 食事関連補助      | 295              | 52.0 | 363              | 49.9 | .439             | 130 | 46.1                      | 260 | 48.6             | 281 | 56.8            | .005  | 365             | 55.1 | 298              | 46.4 | .002           | 582   | 50.0 | 83  | 57.6 | .085 |
| 利用者の見守り・声かけ | 319              | 56.0 | 376              | 52.4 | .198             | 128 | 44.8                      | 262 | 49.5             | 309 | 63.6            | <.001 | 354             | 53.6 | 337              | 53.1 | .838           | 603   | 52.3 | 90  | 63.8 | .009 |

数値は「業務に従事している」と回答した者のうち、就労状況別に $\chi^2$ 検定を行い、P値はそれぞれの検定結果の値を示すパーセンテージは回答したものに對する割合を欠損値は除いて算出した。

表5 介護助手の業務内容と就労によって感じるメリットとの関連

| 業務内容                                       | 社会とのつながり                |                         | 生きがい                    |                         | 収入                      |                         | 介護からの学び                 |            | 健康維持・増進    |            | 時間の有効活用    |            |
|--|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|  | OR (95%CI)              | OR (95%CI)              | OR (95%CI)              | OR (95%CI)              | OR (95%CI)              | OR (95%CI)              | OR (95%CI)              | OR (95%CI) | OR (95%CI) | OR (95%CI) | OR (95%CI) | OR (95%CI) |
| <b>【全体 (n = 1,601)<sup>a)</sup>】</b>       |                         |                         |                         |                         |                         |                         |                         |            |            |            |            |            |
| 利用者の移動補助                                   | 1.39 (0.95-2.01)        | <b>1.70 (1.07-2.68)</b> | 1.24 (0.85-1.82)        | 0.81 (0.56-1.13)        | 3.22 (2.09-4.97)        | 0.90 (0.55-1.49)        | 0.86 (0.51-1.46)        |            |            |            |            |            |
| 環境整備                                       | 1.32 (0.77-2.26)        | 0.93 (0.49-1.78)        | 1.60 (0.93-2.76)        | <b>1.76 (1.07-2.89)</b> | 1.64 (0.96-2.78)        | <b>2.34 (1.20-4.55)</b> | 1.86 (0.92-3.73)        |            |            |            |            |            |
| 食事関連補助                                     | 1.17 (0.84-1.64)        | 1.39 (0.92-2.09)        | 1.19 (0.84-1.68)        | 0.88 (0.65-1.19)        | <b>2.72 (1.89-3.94)</b> | 1.38 (0.89-2.13)        | 1.03 (0.65-1.63)        |            |            |            |            |            |
| 利用者の見守り・声かけ                                | <b>1.60 (1.16-2.20)</b> | <b>1.66 (1.13-2.43)</b> | <b>1.46 (1.70-2.04)</b> | 0.87 (0.65-1.16)        | <b>3.16 (2.22-4.50)</b> | 1.40 (0.89-2.22)        | 1.06 (0.65-1.70)        |            |            |            |            |            |
| <b>【継続年数3.4年未満<sup>b)</sup> (n = 748)】</b> |                         |                         |                         |                         |                         |                         |                         |            |            |            |            |            |
| 利用者の移動補助                                   | 0.90 (0.52-1.55)        | 1.58 (0.80-3.11)        | 1.37 (0.79-2.38)        | 0.72 (0.44-1.18)        | <b>3.21 (1.76-5.85)</b> | 1.11 (0.52-2.36)        | 1.29 (0.54-3.06)        |            |            |            |            |            |
| 環境整備                                       | 1.40 (0.68-2.89)        | 0.77 (0.31-1.94)        | 1.16 (0.55-2.46)        | 1.59 (0.79-3.22)        | 1.99 (0.98-4.04)        | 1.60 (0.59-4.30)        | 1.02 (0.34-3.08)        |            |            |            |            |            |
| 食事関連補助                                     | 0.88 (0.54-1.45)        | 1.27 (0.69-2.33)        | 0.92 (0.56-1.52)        | <b>0.60 (0.37-0.96)</b> | <b>2.17 (1.31-3.59)</b> | 1.80 (0.90-3.62)        | 0.89 (0.41-1.91)        |            |            |            |            |            |
| 利用者の見守り・声かけ                                | 1.23 (0.77-1.97)        | 1.30 (0.74-2.29)        | 1.41 (0.89-2.24)        | <b>0.60 (0.38-0.94)</b> | <b>3.70 (2.24-6.10)</b> | 1.35 (0.71-2.58)        | 0.55 (0.26-1.15)        |            |            |            |            |            |
| <b>【継続年数3.4年以上<sup>b)</sup> (n = 755)】</b> |                         |                         |                         |                         |                         |                         |                         |            |            |            |            |            |
| 利用者の移動補助                                   | <b>2.05 (1.21-3.48)</b> | <b>1.89 (1.01-3.54)</b> | 1.20 (0.70-2.06)        | 0.93 (0.59-1.46)        | <b>3.20 (1.70-6.00)</b> | 0.78 (0.40-1.55)        | 0.69 (0.35-1.36)        |            |            |            |            |            |
| 環境整備                                       | 1.33 (0.58-3.03)        | 1.15 (0.46-2.86)        | <b>2.26 (1.01-5.09)</b> | 1.79 (0.87-3.68)        | 1.29 (0.56-2.99)        | <b>3.75 (1.46-9.63)</b> | <b>3.31 (1.27-8.62)</b> |            |            |            |            |            |
| 食事関連補助                                     | 1.51 (0.95-2.42)        | 1.50 (0.84-2.66)        | 1.49 (0.91-2.43)        | 1.15 (0.76-1.74)        | <b>3.37 (1.95-5.84)</b> | 1.20 (0.64-2.28)        | 1.16 (0.62-2.20)        |            |            |            |            |            |
| 利用者の見守り・声かけ                                | <b>1.96 (1.25-3.08)</b> | <b>2.10 (1.21-3.62)</b> | <b>1.66 (1.04-2.64)</b> | 1.11 (0.75-1.65)        | <b>2.58 (1.55-4.30)</b> | 1.09 (0.59-1.98)        | 1.42 (0.77-2.63)        |            |            |            |            |            |

ORはオッズ比、95%CIは95%信頼区間を示す。

a) 調整変数として、介護助手の性別、年齢カテゴリ、資格保有の有無、最終学歴、主観的健康感、就労動機、週あたりの勤務時間、介護助手としての継続年数を強制投入し、業務の種類は、回帰式ごとに1項目ずつ投入した結果。

b) 介護助手としての継続年数別に業務の種類を、回帰式ごとに1項目ずつ投入した結果。調整変数として、介護助手の性別、年齢カテゴリ、資格保有の有無、最終学歴、主観的健康感、就労動機、週あたりの勤務時間を強制投入している。



ち、就労目的)を事前にアセスメントしておけば、当該メリットを感じられるような業務に配置するといった業務運営も可能になり、双方にメリットをもたらすと考えられる。このように、先行研究<sup>9,10)</sup>に対し、より実務、実践的な示唆を提供できた点は本研究の意義と言えよう。

高年齢介護助手の個人特性としての特徴は、女性、前期高齢者が多く、健康状態も良好な者が従事していることであった。全国的にみても施設介護職員の性別割合は78.5%と女性が多く<sup>15)</sup>、高年齢介護助手にも同様の傾向がうかがえることが明らかとなった。業務内容では利用者の移動補助は男性が多く従事し、環境整備や食事関連補助は女性や勤務日数が5日未満の者が多かった。利用者の移動補助について、男性と年齢が若い方の従事割合が高かったことは、移動動作に伴う車椅子操作等は体力を必要とする介護業務であることが要因であると考えられる。また、移動補助の業務は資格の有無で差がなく、資格がなくても遂行可能な業務のひとつであることが特徴として考えられた。加えて、移動補助の業務は、勤務日数が5日以上の方が従事している割合が高かった。これは、移動補助業務に「利用者の送迎・送迎補助」が含まれることが関与していることが考えられる。施設への送迎時の移動環境には課題が多く<sup>16)</sup>、ほぼ毎日就労することにより、地域の交通事情や利用者の居宅の場所や住宅事情などの周囲の環境を把握することができ、円滑な業務の遂行につながる可能性が高い。

利用者の見守り・声かけの業務は、勤務時間が長い方が、従事割合は高くなっていたが、勤務日数には影響を受けず、勤務パターンでは、「流動的」の方がより従事していた。この業務は、介護職が他の業務などで多忙な時などに高年齢介護助手が勤務時間をかけて、利用者にも柔軟に対応している様子が伺える。また、利用者との会話や接触頻度が高いこの業務は、利用者と年齢が近い高年齢介護助手の強みともいえる共感力の高さを生かせる業務のひとつである<sup>17)</sup>。固定的な雇用より流動的に就労できる就労環境の整備を行い高年齢介護助手を確保しておくことで、利用者にも施設側にも高いメリットをもたらすと思われる。

続いて、業務内容別にみた高年齢介護助手の就労によって感じるメリットとの関連について考察する。環境整備の業務内容は、介護助手業務の中でも備品管理や整理、ベットメイキングなど定型業務で不確定要素が少ない業務であること、また、他者との接触も少ない業務と考えられる。そのため、就労の意義や動機として挙げられやすい「収入」や

「時間の有効活用」「健康の維持・増進」など、他のメリットと比較して、自分自身に向けてのメリットと関連する結果となったと考察される。一方で、利用者と接する機会の多い、見守りや声かけや移動の補助の業務では、社会貢献や、社会とのつながりを就労によるメリットとして感じていた。高年齢介護助手による見守りなどは、介護職員の精神的ゆとりを生み、より専門性の高い介護業務に専念できるとも報告されている<sup>17)</sup>ことから、利用者だけでなく、介護職員も含めて「社会」に対してメリットを感じているとも考えられる。食事関連補助では介護について学べる機会であると感じており、介護について理解が深まることは、この先、自身が家族等に介護を行う際の一助となりうることを示唆している。介護助手としての継続年数別にみると、経験年数が長いほど、多くの業務がメリットと関連していた。介護助手は就業継続により経験値が高まり、多面的なメリットを感じやすくなる可能性が明示されたと考えられる。一方で、食事関連補助と利用者の見守り・声かけに従事している者では、継続年数が短い者で収入のメリットと負の関連があった。これらの業務内容は、利用者との接触機会も多いことから、利用者への個別対応や高齢者介護の特徴の理解が必要であり、経験年数が浅い介護助手には負担が高く、対価としての「収入」にメリットを感じにくい状態を引き起こしている可能性がある。「収入」に対してメリットを感じていない、もしくは不満である場合、就労継続意欲に大きく影響すると報告されており<sup>18)</sup>、対策が必要であるとともに、介護助手の経済的状況も視野に入れた今後の研究の知見の蓄積が求められよう。

以上のように、業務内容や継続年数によって、得られるメリットが違うことが明らかになった。雇用者側が高年齢介護助手の個人特性や就労状況など個別性に配慮した業務内容に従事できるようにすることで、よりよい労働環境となる可能性があると考えられる。また、先述したように、多様なメリットの獲得や得られたメリットの内容により、高年齢介護助手の精神的健康の向上に寄与することが報告されている<sup>10)</sup>。業務内容を見直し、現在得られている種類以外のメリットも得られるように配置転換など、労働環境を改善することで、介護助手のやりがい向上や雇用の継続につながる可能性がある。また、介護助手の導入は、施設の介護職員のストレスや業務負担を軽減することが明らかとされている<sup>19)</sup>。今後、高年齢介護助手の雇用拡大のためには、週あたりの勤務時間数などの就労状況による高年齢介護助手のストレスや従事することによる満足度、望む就

労形態の解明や検討が必要であると考えられる。

最後に、本研究の限界を述べる。1つ目に、本研究は横断調査であるため、高年齢介護助手の業務内容と就労によって感じるメリットについての因果関係には言及できない。今後、縦断調査を行い、業務内容と就労によって感じるメリットとの関連を明らかにするとともに、高年齢介護助手の就労の継続状況も明らかにしていく必要があると考えられる。一例を挙げれば、介護助手としての経験年数が長い者は多くのメリットが得られると回答していたが、逆に多くのメリットを感じている者ほど経験年数が長い可能性もあり、縦断調査による因果関係の明示が重要であるといえよう。2つ目として、調査対象施設からの十分な回収が得られず、さらに、本研究の対象者のサンプリングは施設ごとに最大5人のデータの収集に留まっている。介護老人保健施設に雇用されている介護助手の代表性が乏しいとともに、雇用している介護助手が5人以上の場合、サンプリングにバイアスが生じている可能性があることは否めない。さらには、本研究の対象施設は医療機関と在宅介護の「中間施設」<sup>20)</sup>に位置付けられる介護老人保健施設に限定されていることから、高年齢介護助手として就労している者の業務への従事内容や就労パターンに影響を及ぼしていると考えられる。介護老人福祉施設での介護助手の認知度が低いという報告もあり<sup>21)</sup>、今後、調査対象施設の拡大の必要がある。3つ目に、本調査実施時期は新型コロナウイルス感染症の第3波の初期段階であり、高年齢介護助手の雇用や就労そのものに影響があった可能性が考えられるため、結果の解釈には注意が必要である。4つ目に、本研究は高年齢介護者本人への調査であり、従事する業務内容も質問紙により限定的であったため、雇用者側の見解なども含めての検証が困難だった。今後の研究への展望として介護助手と雇用者側の両方の視点を網羅的に調査するとともに、業務内容を最初から特定せず、より包括的な調査方法の検討や検証が必要であると考えられる。

## V 結 語

業務内容では、利用者の移動補助にかかわる業務は男性や前期高齢者、週5日以上勤務している者の従事している割合が高いのに対し、利用者の見守り・声かけの業務は性差や勤務日数との関係性が薄く、介護助手は柔軟に従事していた。介護業務から得られるメリットとの関係では、利用者との接触が多い業務は社会貢献やつながり、生きがいや介護からの学びというメリットと関連し、接触の少ない業務内容は収入や時間の有効活用と関連があり、介護

助手の継続年数による違いもみられることが明らかとなった。

本研究の実施にあたり、ご協力頂きました全国老人保健施設協会の皆様、全国老人保健施設協会の会員施設のスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。本研究に関して、東憲太郎は公益社団法人全国老人保健施設協会会長としての役員報酬を受けている。その他の著者には、開示すべきCOI関係はありません。本研究はJSPS科研費 JP23K10227の助成を受けたものです。

( 受付 2023. 8. 3 )  
( 採用 2024. 1. 22 )  
( J-STAGE早期公開 2024. 4. 30 )

## 文 献

- 1) 内閣府. 平成29年度高齢社会白書(全体版). 2017. [https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf_index.html) (2024年1月10日アクセス可能).
- 2) 藤原佳典. 年齢とともに、活躍の舞台を変えよう! 藤原佳典, 小池高史, 編. ジェロントロジー・ライブラリーII 高齢者の就労と健康 何歳まで働くべきか? 東京: 社会保険出版社. 2016; 26-49.
- 3) 介護労働安定センター. 令和2年度介護労働実態調査結果の概要について. 2021. [http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2021r01\\_chousa\\_kekka\\_gaiyou\\_0823.pdf](http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2021r01_chousa_kekka_gaiyou_0823.pdf) (2024年1月10日アクセス可能).
- 4) 厚生労働省. 第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について. 2021. <https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000804129.pdf> (2024年1月10日アクセス可能).
- 5) 相良友哉, 村山洋史, 高橋知也, 他. 介護補助・保育人材として就労意向を持つ高齢者の特性. 日本公衆衛生雑誌 2022; 69: 779-789.
- 6) 厚生労働省. 介護現場革新会議基本方針. 2019. <https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000494186.pdf> (2024年1月10日アクセス可能).
- 7) 公益社団法人全国老人保健施設協会. 介護老人保健施設等における業務改善に関する調査研究事業報告書. 2021. <https://www.roken.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/gyomukaizen.pdf> (2024年1月10日アクセス可能).
- 8) 相良友哉, 高瀬麻以, 杉浦圭子, 他. 介護老人保健施設の規模による高年齢介護助手の導入実態と課題. 日本公衆衛生雑誌, 2024. (doi:10.11236/jph.23-052).
- 9) 馬 盼盼, 相良友哉, 杉浦圭子, 他. 高年齢介護助手における職業性ストレスおよびソーシャルサポートと情緒的消耗感の関連. 厚生の指標 2023; 70: 9-15.
- 10) 中本五鈴, 杉浦圭子, 相良友哉, 他. 高年齢介護助手が就労によって感じるメリットと情緒的消耗感との関連: 横断研究. 日本公衆衛生雑誌 2023; 70: 425-432.
- 11) 吉田志保, 半田 仁, 小林桂子, 他. 介護業務内容の分析及びその階層化に関する予備的研究 1—介護助

- 手に焦点をあてて一. 敬心・研究ジャーナル 2019; 3: 99-105.
- 12) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム. 高齢者就労支援プロジェクト. 2014-2023. <https://sites.google.com/site/elderlyemployment/home> (2024年1月10日アクセス可能).
- 13) 内閣府. 令和2年版高齢社会白書 2 就業の状況. 2021. [https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1\\_3\\_1\\_2.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_3_1_2.html) (2024年1月10日アクセス可能).
- 14) 労働政策研究・研修機構. 高年齢者の雇用・就業の実態に関する調査. 2010. <https://www.jil.go.jp/institute/research/2010/documents/075.pdf> (2024年1月10日アクセス可能).
- 15) 公益財団法人介護労働安定センター. 平成30年度介護労働実態調査事業所における介護労働実態調査結果報告書. 2018. [http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2019\\_chousa\\_jigyousho\\_chousahyou.pdf](http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2019_chousa_jigyousho_chousahyou.pdf) (2024年1月10日アクセス可能).
- 16) 小野めぐみ, 森 傑. 高齢者通所介護施設による送迎サービスの実態と移動環境の課題. 都市計画論文集 2008; 43: 403-408.
- 17) 佐伯久美子, 人見優子, 山口由美. アクティブシニア介護助手雇用の効果と課題—A 県の介護老人福祉施設の介護長を対象としたインタビュー調査を通して—. 介護福祉士 2022; 35-45.
- 18) 笠井恵美. 定年後の雇用におけるモチベーションに関する要因の探索. Works Review 2012; 7: 100-113.
- 19) Sakurai R, Watanabe S, Mori H, et al. Older assistant workers in intermediate care facilities, and their influence on the physical and mental burden of elderly care staff. BMC Health Services Research 2021; 21: 1285.
- 20) 厚生労働省老健局. 介護老人保健施設. 2023. <https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001131788.pdf> (2024年1月10日アクセス可能).
- 21) 人見優子, 佐伯久美子, 山口由美. 元気高齢者「介護助手」活用の現状分析と課題. 十文字学園女子大学紀要 2021; 51: 105-117.
-

## Examination of the relationship between tasks in geriatric health service facilities and benefits of working for older assistant care workers

Keiko SUGIURA<sup>\*,2\*</sup>, Tomoya SAGARA<sup>\*</sup>, Mai TAKASE<sup>\*</sup>, Isuzu NAKAMOTO<sup>\*,3\*</sup>,  
Panpan MA<sup>\*,4\*</sup>, Yoko MUTO<sup>\*,5\*</sup>, Kentaro HIGASHI<sup>6\*</sup>, Yoshinori FUJIWARA<sup>7\*</sup>  
and Hiroshi MURAYAMA<sup>\*</sup>

**Key words** : older assistant care workers, geriatric health services facility, tasks in elderly care facilities, work benefits

**Objective** In this study, we clarified the characteristics of tasks performed by older assistant care workers at geriatric health services facilities, by individual characteristics and work status. Additionally, we examined the relationship between the tasks and benefits of working for older assistant care workers.

**Methods** A self-administered questionnaire survey was provided to 2,571 elderly care facilities employing assistant care workers aged  $\geq 60$ .

A total of 1,606 responses were obtained, and personal characteristics, working conditions, tasks, and benefits of working for older care assistants were surveyed. Thirteen work tasks were established and categorized into four broad categories; user transfer assistance, facility maintenance, meal-related assistance, and managing and talking to users. Seven benefits of working as care assistants were “contribution to society,” “social connection,” “purpose of life,” “income,” “learning from caregiving,” “health maintenance and promotion,” and “time utilization.”

**Results** Most of the respondents were women and relatively young workers. Among tasks, men, younger workers, and those working  $> 5$  days weekly represented a high proportion of those performing user transfer assistance tasks. Tasks on managing and talking to users were not correlated with sex, age, and number of days worked, but those with more flexible work patterns were more likely to be engaged in such tasks. Logistic regression analysis showed that user transfer assistance was correlated with benefits of working, such as “contribution to society,” “social connection,” and “learning from caregiving.” Moreover, facility maintenance was associated with “income,” “health maintenance and promotion,” and “time utilization” and meal-related assistance was associated with “learning from caregiving.” Managing and talking to users was associated with “contribution of society,” “social connection,” “purpose of life,” and “learning from caregiving.”

**Conclusion** The tasks of the workers were associated with individual characteristics and work status. The perception of benefits between the working tasks that involved frequent contact with users and those that did not were considerably different.

---

\* Research Team for Social Participation and Healthy Aging, Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology

<sup>2\*</sup> Department of Health Sciences, Kyushu University

<sup>3\*</sup> Department of Gerontological and Home Healthcare Nursing, Health Sciences, Tohoku University Graduate School of Medicine

<sup>4\*</sup> School of Nursing at Narita, Global Health Nursing, International University of Health and Welfare

<sup>5\*</sup> National Center for Global Health and Medicine, Bureau of International Health Cooperation, Institute for Global Health Policy Research

<sup>6\*</sup> Japan Association of Geriatric Health Services Facilities

<sup>7\*</sup> Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology